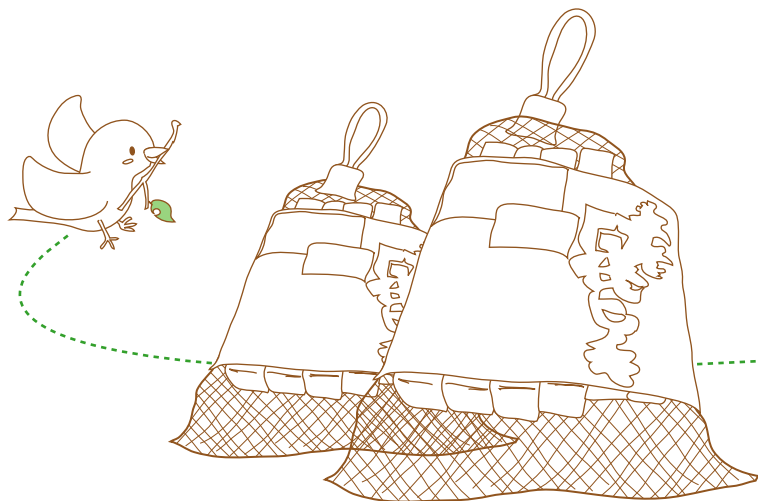


間伐材で広がる笑顔のお話

～関わりあう人々が幸せになる仕組み～



仮設住宅の被災者のお話

ソーケングループでは間伐材ヒノキの梱包作業を、仙台市あすと長町仮設住宅に在住の皆様へお仕事として依頼しております。職に就くことが難しい女性・高齢者・障害を持つ被災者の方々を中心に「内職クラブ」を設立しました。

「仕事をしていると辛い事を忘れられる」「ヒノキの香りが心を癒してくれる」など被災された方々から賃金以外にもやっつけて良かったと言葉をもらえる様になりました。

活動内容が評価され、毎日新聞、日本経済新聞にも間伐ヒノキを取り上げて頂きました。



▲梱包された間伐ヒノキ



▲内職クラブメンバーと有吉社長

12月に内職クラブに新メンバーが加わりました。その方は震災で家族を失い、心に傷を負っている方でした。「仮設住宅に閉じこもっているよりは働いた方がいいのでは？」とメンバーに誘われ内職クラブに入りました。

メンバーの後押しで始めた内職。小さな事かもしれませんが、それはとても大きな一歩でもありました。今ではソーケングループが主催するボランティア美容院に来て頂けるぐらい元気になっております。髪を切った後に「綺麗になったね」と、まわりからの声に思わず笑顔がこぼれていました。

被災された方々の収入の助けにと始めた「間伐ヒノキ」。ヒノキの香りは我々の知らない間に想像以上の癒しをもたらしていました。

福祉作業所のお話

間伐ヒノキのカット作業は「社会福祉法人 桂会 あしたば作業所」に仕事として依頼しております。福祉作業所では施設の老朽化、そして働き口の低迷が問題視されております。少しでも収入・運営費の助けになればと思い始めました。

ソーケングループでは間伐材を使った玩具等の依頼を数多くの施設にお願いしております。今では作業所では給料のほかにボーナスも支給されるようにまできました。

またある作業場の椅子もパイプ椅子から背もたれの付く椅子に変わり、作業環境の向上にもつながっております。



間伐材のお話

ソーケングループが東京ビックサイト:エコプロダクト2010(2010.12.9)に間伐材商品で出展致しました。一人のお爺さんが商品を見て「これは間伐材ですか？」と聞いてきました。話を聞いてみると・・・

お爺さんの子供の頃は林業が盛んで木材が足りずに山に必要な以上の杉を植えていたそうです。後にその自分が植えた木が森林の密集化に繋がり、間伐しないと森林に悪影響を与えとは想像も付かなかったそうです。ブースに並べられた間伐材商品を見てお爺さんは「ありがとう」と行ってブースを去って行きました。間伐材問題は山だけじゃなく植えた人達も辛い思いをしていると知りました。



みんなのお話

ソーケングループが「間伐ヒノキ」を作ったの経緯は、被災者のニーズが背景にあります。有吉社長は震災後直ぐに被災地へ行き、常に被災者の声に耳を傾けてきました。被災地にただ一回行って終わりという支援活動にたくない。変わりゆくニーズに応じていきたい。そう考えた有吉は積極的に被災地に行き、仮設住宅にて被災者の方々と定例会を行なってまいりました。みんなの話を聞き、取り組むすべての人々が幸せになる仕組みはと考えて「間伐ヒノキ:内職クラブ」は生まれました。

今この活動が、テレビ、ラジオ、新聞などに多数取り上げて頂くようになりました。これが話題となり「間伐ヒノキ」の需要が増えれば、もっと沢山の人の手を助けられる。有吉はそう語ります。これからもソーケングループは姿勢を変えずに被災者の声を一番に考え支援活動を続けてまいります。

